

大山まちづくり総合計画

文化交流拠点に相応しい、交通基盤整備や鉄道立体化により利便性に優れ
誰もが暮らしやすく、にぎわいに満ちた安心安全なまち ～大山～



平成26年3月
板橋区

大山まちづくり総合計画の策定にあたって

「大山」の地名の由来は古く、現在の健康長寿医療センターの辺りにかつて広い丘があり、それを大山と呼んでいたという説と、神奈川県にある大山（別名は阿夫利山、雨降山）に詣でる「大山詣」によりにぎわった大山街道が通っていたことから、大山と呼ばれるようになったという説があります。

また、大山は板橋宿を起点に川越城を結ぶ幹線道路である川越街道沿道に位置しており、古くから人々が行き交うことで、「おもてなしの心」を育んできたにぎわいのあるまちを形成してきました。

1914年(大正3年)の東上鉄道(現在の東武東上線)の開通や1931年(昭和6年)の大山駅の開業などにより、更ににぎわい、多くの人が集まるまちに発展してきました。

大山のまちは、皆様が時代に合わせてまちをつくり、重要な行政、経済集積地としても発展してきたことから、にぎわいを生み出してきたまちと言えます。

板橋区では、現在もにぎわいと魅力にあふれる大山を、板橋全体を再生するための「板橋区の顔」として考え、まちづくりを進めてきました。

特に、平成21年6月に商店街・町会・公募区民の方々により結成された「大山駅周辺地区まちづくり協議会」が約2年半の長期にわたるまちづくりの活動のなか、懇談会や広報紙発行による地元根ざした検討を行い、その成果である『大山駅周辺地区まちづくりマスタープラン』のご提言により、大山のまちづくりは大きく前進いたしました。

この『大山駅周辺地区まちづくりマスタープラン』やまちづくりについての説明会、パブリックコメント(意見公募)など、地域の皆様のご意見も踏まえ、『大山まちづくり総合計画』を策定しました。

この計画では、将来のまちの姿を、「文化交流拠点に相応しい、交通基盤整備や鉄道立体化により利便性に優れ、誰もが暮らしやすく、にぎわいに満ちた安心安全なまち～大山～」としています。中でも、板橋区の悲願でもある東武東上線による市街地分断の解消については、鉄道立体化の早期実現を目指し、この計画により強力にまちづくりに取り組んでまいります。

時代の変化に合わせ、未来を見据えたまちづくりを進めるにあたっては、区民の皆様、事業者、行政などの様々な立場の方々が協働して取り組んでいくことが重要と考えています。

皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

平成26年3月

板橋区長

坂本 健



目次

1.	大山まちづくり総合計画とは.....	1
(1)	計画の目的.....	1
(2)	計画の対象地区.....	1
(3)	計画の位置づけ.....	2
2.	大山駅周辺地区の現況と課題.....	3
(1)	大山駅周辺地区の立地特性.....	3
(2)	大山駅周辺地区の状況.....	4
(3)	上位計画・関連計画における位置づけ.....	6
(4)	土地利用・建物構造の現況.....	9
(5)	大山駅周辺地区の課題.....	10
3.	大山駅周辺地区の将来イメージなど.....	11
(1)	大山駅周辺地区の将来のまちの姿.....	11
(2)	まちづくりの整備方針.....	13
(3)	大山駅周辺の将来のまちのイメージ.....	14
(4)	まちづくりの整備方針図.....	16
4.	大山駅周辺のまちづくりの実現に向けて.....	18
(1)	交通体系.....	18
(2)	土地利用・建物利用.....	24
(3)	横断的な整備方針.....	30
(4)	ユニバーサルデザイン.....	34
(5)	協働によるまちづくりの推進.....	35
(6)	今後のまちづくりの進め方.....	37

巻末資料 大山まちづくり総合計画策定経緯

用語集（ 印のついた言葉の説明を記載しています）